



シンバイオ製薬株式会社



## 平成23年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成23年11月11日

上場会社名 シンバイオ製薬株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 4582 URL <http://www.symbiopharma.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼 CEO (氏名) 吉田 文紀  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員 CFO 管理本部長 (氏名) 前川 裕貴 (TEL) 03(5472)1125  
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年12月期第3四半期の業績（平成23年1月1日～平成23年9月30日）

## (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第3四半期	1,306	—	△1,757	—	△1,766	—	△1,775	—
22年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年12月期第3四半期	△131 65	— —
22年12月期第3四半期	— —	— —

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。  
 2. 当社は平成23年12月期第1四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年12月期第3四半期	4,733	4,307	91.0	307 01
22年12月期	4,262	4,083	95.8	36,541 74

(参考) 自己資本 23年12月期第3四半期 4,307百万円 22年12月期 4,083百万円

(注) 当社は平成23年6月2日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年12月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
23年12月期	— —	0 00	— —		
23年12月期 (予想)				0 00	0 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無： 無

3. 平成23年12月期の業績予想（平成23年1月1日～平成23年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
	1,933	33.4	△2,351	—	△2,398	—	△2,407	—	△164 39

（注）1. 当四半期における業績予想の修正有無： 無

2. 平成23年10月19日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による増資を行ったことによる、発行株式の増加を加味して算出しております。

4. その他（詳細は、〔添付資料〕P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

（1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用： 無

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

（2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更： 有

② ①以外の変更： 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年12月期3Q	14,030,900株	22年12月期	111,737株
23年12月期3Q	—株	22年12月期	—株
23年12月期3Q	13,483,900株	22年12月期3Q	—株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

（注）当社は平成23年6月2日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	1
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	1
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	1
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
(第 3 四半期累計期間) .....	5
(第 3 四半期会計期間) .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(7) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

当社は、平成23年12月期第1四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。また、文中の将来に関する事項は、本決算短信提出日現在において当社が判断したものであります。

### （1）経営成績に関する定性的情報

当第3四半期会計期間における当社事業の進捗状況は以下のとおりであります。

#### ① 国内

抗がん剤 SyB L-0501（一般名：ベンダムスチン塩酸塩、商品名：トレアキシン®）につきましては、業務提携先のエーザイ株式会社（以下「エーザイ」という）を通じ、再発・難治性の低悪性度非ホジキンリンパ腫及びマントル細胞リンパ腫を適応症として国内販売を行っております。発売以来、トレアキシン®の販売は堅調に推移し、当社のエーザイに対する売上も計画通り進捗しました。

さらに、適応症追加を目的とした、再発・難治性の中高悪性度非ホジキンリンパ腫を対象とする第Ⅱ相臨床試験（日韓共同試験）につきましては、平成23年6月に全ての症例登録が完了し、登録患者への投与を継続して実施しました。

また、多発性骨髄腫を対象とする第Ⅱ相臨床試験につきましては、より医療ニーズの高い再発・難治性の患者さんを対象とした臨床試験の準備を進めました。加えて、初回治療の低悪性度非ホジキンリンパ腫及びマントル細胞リンパ腫を対象とする第Ⅱ相臨床試験の準備も進めました。

経皮吸収型持続性制吐剤 SyB D-0701につきましては、放射線療法に伴う悪心・嘔吐を対象とする第Ⅱ相臨床試験の患者登録並びに投与を継続して実施しました。

抗がん剤 SyB 0702につきましては、第Ⅰ相臨床試験開始をサポートするための前臨床試験を、継続して実施しました。

一方、当社は平成23年7月7日に、オンコノバ・セラピューティクス社（米国）と抗がん剤 SyB L-1101（注射剤）/C-1101（経口剤）（一般名：Rigosertib）2剤の日本及び韓国における独占的開発権及び独占的販売権の供与を受けるライセンス契約を締結しました。本開発品につきましては、血液がんの一種である、再発・難治性の骨髄異形成症候群を適応症とする、国内第Ⅰ相臨床試験の準備を進めました。

#### ② 海外

SyB L-0501につきましては、シンガポールにおいて販売が順調に推移しました。また、韓国においては、平成23年5月31日に慢性リンパ性白血病及び多発性骨髄腫を適応症として承認され、平成23年10月より販売を開始しました。なお、シンガポールと韓国では、国内と同様、エーザイを通じて販売を行っております。

その他、台湾におきましても業務提携先であるイノファーマックス社（台湾）により、引き続き製造販売承認取得に向けた申請後の当局対応が進められました。その結果、平成23年10月18日に当局より製造販売承認を取得しました。

#### ③ 経営成績

以上の結果、当第3四半期会計期間の売上高は、SyB L-0501の国内向けの商品（トレアキシン®）販売により、324,243千円となりました。

一方、販売費及び一般管理費は、SyB L-0501の各適応症の臨床試験及びその準備、SyB D-0701の臨床試験、並びにSyB 0702の前臨床試験に加え、開発品の新規導入（SyB L-1101/C-1101）に伴う契約一時金の支払いが発生したこと等により研究開発費を937,600千円計上したこと、その他の販売費及び一般管理費を198,320千円計上したことから、合計で1,135,920千円となりました。

これらの結果、当第3四半期会計期間の営業損失は1,056,425千円となりました。また、為替差益を主として営業外収益を12,397千円計上した一方、株式公開費用を主として営業外費用を22,830千円計上したことにより、経常損失は1,066,858千円、四半期純損失は1,067,808千円となりました。

## （2）財政状態に関する定性的情報

## ① 財政状態

当第3四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ470,890千円増加し、4,733,674千円となりました。流動資産は4,680,997千円と前事業年度末に比べ468,197千円増加しました。これは、主として第三者割当増資により現金及び預金、有価証券が増加したこと、並びにトレアキシシ<sup>®</sup>の販売の順調な進捗に伴い、売掛金、商品及び製品が増加したことによるものです。また、固定資産は2,693千円増加し、52,676千円となりました。

負債合計は、前事業年度末に比べ246,385千円増加し、426,104千円となりました。流動負債は、主としてトレアキシシ<sup>®</sup>の販売増加に伴い買掛金が増加したこと、各種臨床試験費用の増加に伴い未払金が増加したことから、前事業年度末に比べ246,222千円増加し、424,106千円となりました。固定負債は、退職給付引当金のみであり、当第3四半期会計期間末は1,998千円となりました。

純資産合計は、四半期純損失1,775,148千円を計上したこと等により、繰越損失（利益剰余金のマイナス）が増加したものの、第三者割当による新株の発行を行った結果、資本金が4,710,850千円、資本準備金が4,680,850千円となり、それぞれ1,000,020千円増加したことから、前事業年度末に比べ224,505千円増加し、4,307,569千円となりました。この結果、自己資本比率は91.0%と前事業年度末に比べ4.8ポイント減少しました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前四半期会計期間末に比べ1,244,222千円減少し、4,073,668千円となりました。

当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の減少は、973,518千円となりました。これは、たな卸資産の減少140,397千円、未払金の増加13,476千円等の増加要因があったものの、当第3四半期会計期間において税引前四半期純損失を1,066,858千円計上したこと、仕入債務が54,144千円、その他流動負債が11,695千円、それぞれ減少したこと、その他流動資産が23,345千円増加したこと等により資金が減少したことが主な要因です。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、3,328千円となりました。これは、敷金及び保証金の差入による支出3,825千円が主な要因です。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、250,000千円となりました。これは、トレアキシシ<sup>®</sup>の仕入債務支払いを目的とした短期借入金250,000千円を返済したことが主な要因です。

## （3）業績予想に関する定性的情報

当社パイプラインの開発の進捗に伴う研究開発費の増大等により、販売費及び一般管理費は3,021百万円と前年度対比で大幅に増加する見込みです。なお、各開発品の主な開発計画は以下のとおりです。

## &lt; SyB L-0501 &gt;

再発・難治性の中高悪性度非ホジキンリンパ腫の患者さんを対象とした第Ⅱ相臨床試験を継続してまいります。

初回治療の低悪性度非ホジキンリンパ腫及びマンテル細胞リンパ腫の患者さんを対象とした第Ⅱ相臨床試験については、平成23年11月9日に最初の患者登録が完了しており、引き続き患者登録を進めてまいります。

多発性骨髄腫については、再発・難治性の患者さんを対象とした第Ⅱ相臨床試験の準備を進めてまいります。

当社は、SyB L-0501のライフサイクル・マネジメントを推進すべく、上記以外の適応症の開発についても検討してまいります。

## &lt; SyB 1101 &gt;

血液がんの一種である、再発・難治性の骨髄異形成症候群（MDS）を適応症とする、国内第Ⅰ相臨床試験の準備を進めてまいります。

## &lt; SyB D-0701 &gt;

放射線療法に伴う悪心・嘔吐を対象とする第Ⅱ相臨床試験を、引き続き進めてまいります。

収益面では、平成22年12月に国内で販売を開始した「トレアキシ<sup>®</sup>」の収益が本格的に寄与してくる見込みです。当社は、販売を担当するエーザイと共に、「トレアキシ<sup>®</sup>」のマーケティングを積極的に推進してまいります。

一方、アジア地域においては、SyB L-0501のシンガポール、韓国及び台湾における売上を見込んでおります（販売は、シンガポール及び韓国についてはエーザイが、台湾についてはイノファーマックス社がそれぞれ担当）。

以上の結果、売上高1,933百万円、営業損失2,351百万円、経常損失2,398百万円、当期純損失2,407百万円を見込んでおります。

## 2. その他の情報

### （1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

### （2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期累計期間の営業損失及び経常損失は、それぞれ1,363千円増加し、税引前四半期純損失及び四半期純損失は、それぞれ6,694千円増加しております。また、当会計基準の適用開始により、投資その他の資産の「敷金及び保証金」が5,331千円減少しております。

### （3）継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,321,712	2,314,484
売掛金	179,319	5,934
有価証券	1,851,975	1,701,323
商品及び製品	95,778	—
前払費用	101,253	101,905
立替金	73,104	86,081
その他	57,853	3,070
流動資産合計	4,680,997	4,212,800
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,509	2,631
工具、器具及び備品（純額）	16,080	19,295
有形固定資産合計	18,590	21,927
無形固定資産		
ソフトウェア	10,174	772
無形固定資産合計	10,174	772
投資その他の資産		
敷金及び保証金	23,911	27,282
投資その他の資産合計	23,911	27,282
固定資産合計	52,676	49,982
資産合計	4,733,674	4,262,783
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	192,189	1,168
未払金	201,995	124,323
未払法人税等	7,638	10,702
その他	22,284	41,690
流動負債合計	424,106	177,884
固定負債		
退職給付引当金	1,998	1,835
固定負債合計	1,998	1,835
負債合計	426,104	179,719
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,710,850	3,710,830
資本剰余金	4,680,850	3,680,830
利益剰余金	△5,083,726	△3,308,577
株主資本合計	4,307,973	4,083,082
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△404	△18
評価・換算差額等合計	△404	△18
純資産合計	4,307,569	4,083,064
負債純資産合計	4,733,674	4,262,783

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	1,306,894
売上原価	891,549
売上総利益	415,345
販売費及び一般管理費	2,173,104
営業損失(△)	△1,757,759
営業外収益	
受取利息	693
有価証券利息	1,864
助成金収入	51,891
その他	1,065
営業外収益合計	55,514
営業外費用	
支払利息	664
支払手数料	16,828
株式交付費	7,000
為替差損	18,155
株式公開費用	22,074
営業外費用合計	64,723
経常損失(△)	△1,766,967
特別損失	
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5,331
特別損失合計	5,331
税引前四半期純損失(△)	△1,772,298
法人税、住民税及び事業税	2,850
法人税等合計	2,850
四半期純損失(△)	△1,775,148

(第3四半期会計期間)

(単位：千円)

当第3四半期会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	
売上高	324,243
売上原価	244,748
売上総利益	79,494
販売費及び一般管理費	1,135,920
営業損失(△)	△1,056,425
営業外収益	
受取利息	306
有価証券利息	610
為替差益	10,436
その他	1,044
営業外収益合計	12,397
営業外費用	
支払利息	77
支払手数料	5,671
株式公開費用	17,081
営業外費用合計	22,830
経常損失(△)	△1,066,858
税引前四半期純損失(△)	△1,066,858
法人税、住民税及び事業税	950
法人税等合計	950
四半期純損失(△)	△1,067,808

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純損失（△）	△1,772,298
減価償却費	6,042
差入保証金償却額	1,751
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	5,331
退職給付引当金の増減額（△は減少）	163
受取利息	△2,557
支払利息	664
為替差損益（△は益）	20,428
株式交付費	7,000
支払手数料	16,828
売上債権の増減額（△は増加）	△173,384
たな卸資産の増減額（△は増加）	△95,778
前払費用の増減額（△は増加）	△16,176
立替金の増減額（△は増加）	12,977
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△62,889
仕入債務の増減額（△は減少）	191,020
未払金の増減額（△は減少）	77,672
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△13,413
その他	460
小計	△1,796,158
利息及び配当金の受取額	2,748
利息の支払額	△664
法人税等の支払額	△3,800
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,797,874
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有価証券の取得による支出	△100,610
有価証券の償還による収入	100,000
有形固定資産の取得による支出	△1,167
無形固定資産の取得による支出	△10,940
敷金及び保証金の差入による支出	△4,257
敷金及び保証金の回収による収入	546
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,428
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
株式の発行による収入	2,000,040
株式の発行による支出	△7,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,993,039
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20,833
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	157,903
現金及び現金同等物の期首残高	3,915,765
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,073,668

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）セグメント情報

当社の事業は、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（追加情報）

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成23年2月14日開催の当社取締役会において、総額1,988,000千円（1株当たり発行価額70,000円）の第三者割当増資を決議し、これに基づき平成23年2月25日に払い込みが完了いたしました。

また、平成23年3月30日開催の当社取締役会において、総額12,040千円（1株当たり発行価額70,000円）の第三者割当増資を決議し、これに基づき平成23年4月26日に払い込みが完了いたしました。この結果、資本金は4,710,850千円、資本準備金は4,680,850千円となりました。

なお、当社は、平成23年10月20日に大阪証券取引所JASDAQ市場（グロース）に上場いたしました。

当社は、上場に際して、平成23年10月19日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による増資を行ったことにより、平成23年10月19日付で発行済株式総数が5,100,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,313,760千円増加しております。

（7）重要な後発事象

重要な新株の発行について

当社は、平成23年10月20日に大阪証券取引所JASDAQ市場（グロース）に上場いたしました。

当社は、上場に当たり、平成23年9月14日及び同年9月29日開催の取締役会において新株式の発行を決議し、次のとおり同年10月19日に払込が完了しております。

この結果、同日付で資本金は6,024,610千円、発行済株式総数は19,130,900株となっております。

(1) 募集方法

有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）

(2) 発行する株式の種類及び数

普通株式 5,100,000株

(3) 発行価格

1株につき 560円

(4) 引受価額

1株につき 515.2円

この価額は、当社が引受人より1株当たりの新株式払込金として受け取った金額であります。なお、発行価格と引受価額との差額の総額は、引受人の手取金となります。

(5) 発行価額（会社法上の払込金額）

1株につき 391円

(6) 資本組入額

1株につき 257.6円

(7) 発行価格の総額

2,856,000千円

(8) 引受価額の総額

2,627,520千円

(9) 発行価額の総額

1,994,100千円

(10) 資本組入額の総額

1,313,760千円

(11) 払込期日

平成23年10月19日

(12) 資金の使途

平成24・25年度に実施する予定であるSyB L-1101の第Ⅰ相臨床試験費用及び関連するマイルストンの支払、並びにSyB L-0501の多発性骨髄腫、初回治療の低悪性度非ホジキンリンパ腫、初回治療のマントル細胞リンパ腫の第Ⅱ相臨床試験費用及び関連するマイルストンの支払に全額充当する予定であります。

なお、具体的な資金需要の発生までは、安全性の高い金融商品等で運用していく方針であります。